

安心・安全・安楽「介護環境」

2年7組22番 清水 将希

2年7組29番 西成田 千春

実習施設：特別養護老人ホーム やわら木苑

【テーマ】

介護環境

【理由】

各介護場面での環境が良い状態でなければ、利用者に安全・安楽な介護を行うことができず、環境の悪化は利用者の QOL だけでなく ADL の低下や利用者に危険が及ぶ可能性が高くなる。また、介護者への負担も大きくなるので、介護環境を整備することで利用者に安全・安楽に介護を行うことができ、介護者への負担も減ると考え「介護環境」をテーマとした。

【介護場面の実際】

①食事

- ・利用者に合わせて、ほかの利用者が居るホールでのお食事を勧める。
- ・介護者は落ち着いた環境をつくる。・・・①
- ・利用者同士の関係に配慮した座席配置。
- ・椅子や車いすの背もたれの角度調整。
- ・利用者に合わせた食器の選択。
- ・利用者に合わせた食事の形態。
- ・献立に工夫をする。・・・②

②入浴

- ・利用者の体調、身体の状態に合わせた入浴方法の選択。
- ・脱衣所と浴室の寒暖差の調節エアコン等でしっかり行う。
- ・浴室の床にマットを敷く。・・・①
- ・プライバシーの保護をしっかりおこなう。・・・②
- ・必要な物品のみを介助しやすい位置に置く。
- ・利用者に合わせた介助方法で行っているか。
- ・浴槽の温度は適切か。

③排泄

<トイレ>

- ・寒暖差を最小限に。
- ・個室空間になっている。・・・①
- ・利用者の動線に障害物はないか。
- ・着脱しやすい衣服の工夫。
- ・不必要な露出は避け、介助は手際よく。
- ・換気を行い、臭いがこもらないようにする。

- ・空間の広いトイレにする。・・・②

<おむつ>

- ・利用者に合わせたおむつを使用する。
- ・プライバシーの保護をしっかりとこなう。
- ・声掛けをし、残存機能を活かし無理のない介助おこなう。・・・①
- ・必要な物品はあらかじめ使いやすい位置に置いておく。・・・②
- ・素早く丁寧にいき、なるべく露出時間を少なくする。
- ・時間によって使用するおむつの大きさをかえる。・・・③

【考察】

～食事～

- ①利用者が焦らず落ち着いて食事できるようバタバタしない。
- ②毎月1日は赤飯を出し、誕生日の方へのお祝いを行う。
16日は各地の郷土料理を出し楽しみながら食事をしていただく。
楽しみをつくりQOLの低下を防ぐ。

～入浴～

- ①水滴などで滑りやすくなるので利用者が転倒しないよう防止するため。
歩きやすくするため。
- ②特浴や中間浴の際、洗う部位だけ露出し、他の部位はタオルで隠す。その際、濡れたタオルは冷え、体を冷やしてしまうのでタオルは濡らさないようにする。

～排泄～

<トイレ>

- ①カーテンを使用し個室空間を作り利用者の羞恥心になるべく無くし排泄のしやすい環境をつくる。
- ②広いスペースのトイレを造ることによって、車いすの利用者でも、一人で行えるようする。

<おむつ>

- ①介助者のみの力で行うには限界があり、また無理に行うことによって利用者・介助者両方の体に大きな負担がかかる。さらに、利用者の残存機能を低下させてしまう可能性もあるため、声掛けをして意識を持ってもらい少しでも利用者自身が自ら体を動かしてもらえようにする。
- ②不必要な露出を避けるため、介助を行う前に必要な物品は使いやすい位置に置き新しいおむつは開いておく。
- ③日中はPトイレやトイレで排泄を行っている利用者は日中サイズの小さいおむつを使用し、夜間は排泄があっても大丈夫なように少し大きめのおむつを使用する。

各介護場面において・・・

- ・環境が良い→利用者に安全・安楽な介護が可能
- ・環境の悪化→利用者の QOL のみだけでなく ADL の低下、危険が及ぶ可能性が高くなる。また、介護者の体へ負担がかかる。



介護環境を整備すると・・・

- ・利用者に安全・安楽な介護を行うことができる。
- ・介護者も体を痛めにくくなる。

参考文献：川井太加子、生活支援技術Ⅰ基本編、株式会社メヂカルフレンド社、平成24年2月10日
p119～282 より

安心・安全・安楽 「介護環境」

実習施設 特別養護老人ホームやわら木苑
2年7組 22番 清水 将希
29番 西成田 千春



テーマ設定の理由

- 介護環境が悪いと利用者に安全・安楽な介護を提供できないと感じた。また、環境の悪化は利用者のQOLだけでなくADLの低下や利用者に危険が及ぶ可能性が高くなる。さらに介護者への負担も大きくなる。
- そう思ったため「介護環境」をテーマとした。

介護の実際 1

〇～食事～

- ・落ち着いた環境をつくる。

利用者が焦らず落ち着いて食事できるよう介助者はバタバタせず、出入りはなるべく少なくする。

- ・献立を工夫する。

毎月1日は赤飯を出し、誕生日の方への祝いを行う。
16日は各地の郷土料理を出し楽しみながら食事をして頂く。
行事の際には、行事にあった料理を提供する。



介護の実際 2

〇～入浴～

- ・浴室の床にマットを敷く。

水滴などで滑りやすくなるので利用者が転倒しないよう防止するため。また、歩きやすくするため。

- ・プライバシーの保護をしっかりと行う。

特浴や中間浴の際、洗う部位だけ露出し他の部位はタオル等で隠す。その際、濡れたタオルは冷たくなり体を冷やしてしまうのでタオルは濡らさないようにする。



介護の実際 3



トイレ

- ・個室空間になっている。

カーテンを使用し個室空間をつくり利用者の羞恥心をなるべく無くし排泄のしやすい環境をつくる。

- ・空間の広いトイレにする。

広いスペースのトイレを作ることによって車いすの利用者でも一人で行いやすいようにする。



おむつ

- ・声掛けをし、残存機能を活かし無理のない介助を行う。

介助者のみの力で行うには限界があり、また無理に行うことによって利用者・介助者両方に大きな負担がかかる。

さらに、利用者の存在機能を低下させてしまう可能性もあるため、声掛けを意識を持ってもらい少しでも利用者自身が自ら体を動かしてもらえようとする。

考察

各介護場面において・・・

環境が悪い！！

利用者のQOLのみだけでなくADLの低下、事故がおこる可能性が高くなる。

また、利用者だけでなく介護者の体への負担がかかる。



考察 2

介護環境を整備すると・・・

環境が良い！！

利用者に**安全・安楽な介護**を提供することができる。

また、**QOL・ADLの低下を防ぎ、場合によっては向上させる**ことができる。

さらに、介護者への負担も減る。



利用者、介護者両者に**プラス**になる！！



ご静聴 ありがとうございました

最後に...

15日間たくさんお世話になった「やわら木苑」の

利用者みなさん・職方々、

今日まで数多くのアドバイスをくださいました**先生方**

本当にありがとうございました！

ありがとう

